

令和元年度

学生によるオレンジリボン運動

静岡文化芸術大学 実施報告書



実施主体 文化政策学科 心理学(小杉)ゼミ

実施内容 令和元年 11月2日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

ゼミの演習として、児童虐待に関する現状や関連機関等の対応状況について、統計資料や文献、報道番組等の利用をもとに学習し、オレンジリボン運動の必要性について認識を深めた。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

大学祭では、オレンジリボンおよびグッズの配布、独自に作成した資料の配布、インタビュー調査をおこなった。インタビュー調査は、子どもから高齢者まで、121名を対象に実施した。また、同じ日に、浜松市役所が主催する「はままつオレンジリボン運動キャンペーン」に参加し、街頭での啓発グッズの配布をおこなった。

③オレンジリボン運動を終えて…

インタビュー調査の結果、全国共通ダイヤル(189)の認知度は13.2%と、昨年度と同様この地域での啓発運動の必要性を痛感した。

また、身近なところで虐待があった(らしい)と回答した人も9.9%いた。

さらに調査に協力して下さった20代~50代で18歳以下の子どもをもつ女性の中で、「自分も虐待してしまうかもしれない(してしまう気持ちがわかる)」と感じる人は57.1%(32名)もいた。虐待は思った以上に私たちの身近にあるように思われる。

一方、若いお母さんを中心に、浜松市の子育て支援ひろば事業を利用している方も多くみられた。育児に悩むお母さんを支援する場の利用がさらに広がっていくことに期待したい。

オレンジリボン運動に対しては、今年も多くの方に興味をもってもらえた。今年度の経験も踏まえ、この活動を次年度も継続したい。



【静岡文化芸術大学】 <http://www.suac.ac.jp/>